

「ふるさと納税制度」に物申す！

令和6年の流出額が杉並区から53億円、23区全体で933億円にのぼるふるさと納税制度について、返礼品競争での対応でなく大都市と地方の双方にメリットのある制度変革について提言し注目を集めています。

新聞等でも注目！



区民の良識と英知で明日の杉並区を築こう！

杉並区は、日本有数の住宅都市です。杉並区民の良識と英知を結集し、住宅都市杉並区の価値を高め、次世代に誇れる輝かしい明日の杉並区を築いていこう！



前杉並区長

田中 良 プロフィール

杉並の勇氣

昭和35(1960)年杉並区生まれ
杉並ひまわり幼稚園、杉並区立桃井第五小学校
獨協中学・高等学校、明治大学政治経済学部卒業
(株)テレビ東京入社

平成2年 衆議院選挙出馬するも惜敗
平成3年 杉並区議会議員選挙に最年少・最高得票当選
平成5年 東京都議会議員選挙当選 以後連続5期当選
平成21年 東京都議会議長就任(48歳 就任時歴代最年少)
平成22年 杉並区長に当選
平成26年 再選(2期目)
平成30年 再選(3期目)
令和4年 区長選挙で187票差で惜敗



HP



Instagram

杉並を良くする会の目的

- 田中良の活動を真剣に応援する。
- 田中良の活動をより多くの杉並区民にアピールする。
- 杉並区の未来のため、地域の発展に貢献する。

会費

- 一口年間 1万円

※大変恐縮ですが、個人でのご入会のみとさせていただきます。(寄付金控除の対象にはなりません)

会費のお振込み

- みずほ銀行 荻窪支店
普通 2833306
杉並を良くする会
- 郵便振替口座
00190-9-358587

編集・発行 杉並を良くする会 令和7年(2025年)4月

〒167-0022 杉並区下井草5-10-23 田中良事務所内

[TEL] 03-3301-3301 [FAX] 03-3301-3360 [Mail] tanakaryo@tanakaryo.com

区民の良識と英知で 明日の杉並区を築こう！

— どうする明日の杉並 —

令和7(2025)年4月

今、杉並の明日が見えてこない。

変貌する東京の街と大きく変わった人々の暮らし、
多発する自然災害と待ったなしの防災対策とインフラ整備。

こうした中、現区政は、「対話と参加」を掲げるのみで、
福祉や防災まちづくりなどの課題は事実上のストップ状態。
そればかりか多くの区民が知らない間にこれまで先人たちが築いてきた
杉並区の「財産」が切り売りされ、失われようとしています。
劣化する杉並区政の現状とあるべき姿とは何かを一緒に考えましょう。

杉並を良くする会

劣化する杉並区政 これでいいのか！

現区政に変わってやがて3年。今、ほとんどの区民が知らない中で、憂慮すべき区政の劣化が進んでいます。その現状と問題点を見てみましょう。

①区民の安全・安心が置き去りに

令和6年区民意向調査の区民要望の第1位は、防災対策です。にもかかわらず岸本区政は、この課題に真正面から取り組んでいません。

■「3000円の防災用品カタログの全世帯配布」のバラマキ

令和7年度予算の目玉は「3000円の防災用品カタログの全世帯配布」だそうです。違和感を覚えません。今必要なのは大船渡の山火事、八潮の道路陥没そして昨年の能登半島地震等を教訓に、震災救援所の整備やインフラの緊急点検ではないのでしょうか。

■ストップ状態の善福寺川流域の治水対策

これから夏の台風や豪雨が予想されます。20年前の一時間113ミリの集中豪雨では善福寺川、神田川、妙正寺川で大変な被害が出ました。それ以後、杉並区は東京都と共に上流部での調整池等のインフラ整備を目指し治水対策に取り組んできましたが、岸本区長は「区民との対話」を口実に、具体的効果も示せない「グリーンインフラで治水を」と別の会議体を立ち上げ事実上ストップ状態に。

■岸本区長の危機管理意識はゼロ

昨年6月2日、台風2号で国から「命を守る行動を!」と呼びかけられ、杉並区の台風通過のピーク予想が深夜で河川氾濫が予測されていた中、区長は午後7時に公用車で帰宅。



八潮の事故



能登半島地震

②「対話の区政」は何もやらないための時間稼ぎ

区政が進めてきたまちづくりを「プロセスが不透明」、「タワーマンションを計画」などとデマをばらまき、地域の中に「新たな分断」を持ち込み、1年半、「まちづくりを振り返る会」などを開催して検証はしたものの、結局、昨年1月、岸本区長自ら阿佐谷北東部地区計画は、計画通りに実施すると記者会見する始末。

■新たに「まちづくりセッション」や「デザイン会議」を開始

まちづくりの課題と真正面から向き合う覚悟のない岸本区政は、阿佐谷では「まちづくりセッション」、西荻窪や高円寺、南阿佐谷では「デザイン会議」を開催し、時間稼ぎに躍起となっています。駅前や都市計画道路の整備は、まちづくりはもちろん防災上からも不可欠な課題です。特に都市計画道路の整備は、長年の懸案であり地域の要望に基づき東京都の優先整備路線に指定されたものです。こうした時間を引き延ばすための手法は、区民はもちろん、東京都などの関係機関に対する裏切り以外の何物でもありません。



阿佐谷北東地区



完成間近の河北総合病院

③杉並区のブランドが失われようとしています！

自然村がなんと2,690万円、富士学園も売却へ

■杉並区の子どもたちの心のふるさと「富士学園」が売却に！

これまで杉並区の小学5年生は、移動教室に山梨県忍野村の富士学園を利用してきました。ところが杉並区はこの施設を売却する方向でその具体化を進めています。忍野村にある富士学園は富士山を眺める一等地にある施設です。「ポップ時計」のある施設として長年杉並の子どもたちに親しまれてきた心のふるさとを売却しようとしています。一度失ったら2度と戻らない財産をいとも簡単に売却してよいのでしょうか。



富士学園

■自然村も売却—90億円の施設が2,690万円！

加えてこの3月の区議会の区民生活委員会では、杉並区が90億円をかけて建設した群馬県東吾妻町の自然村(コニファーいわびつ)を売却する方針が示されました。驚くべきは、この報告で示された財産評価額がなんと2,690万円ということです。



自然村(コニファーいわびつ)

■杉並区への愛情がひとかけらもない岸本区長！

岸本区長は、一度でも富士学園や自然村に足を運んだことがあるのでしょうか。岸本区長は杉並区への一片の愛情もないに等しいといえます。

④疑惑のプロポーザル

■荻外荘の指定管理者は、あの「虎玄(虎屋グループ)」、ホームページの事業者は杉並区で全く実績のない静岡県の会社が受注

昨年12月に開園した荻外荘の指定管理者選定は、近隣の太田黒公園と角川庭園(詩歌館)を合わせて行われ、なんと選定されたのはあの羊羹の「虎玄(虎屋グループ)」になりました。これまでの実績がある太田黒公園の区内事業者や角川庭園(詩歌館)を運営してきた区内のNPO法人は指定管理者の選定で落選。ところがこの選定委員の一人に「虎玄(虎屋グループ)」と明らかに利害関係の深いライターが選ばれていました。このライターは虎屋から仕事を受けており、虎屋PRの執筆やイベントを直前まで行っており、開園後の荻外荘を紹介する記事も書いています。また今年の2月にリニューアルされた杉並区のホームページの事業者は静岡県に本社がある会社。杉並区で全く実績のない会社がどうして選定されたのかそれも謎です。そのような会社に首都直下型地震などの緊急時の即時対応を任せられるのかも疑問です。



荻外荘

■区内事業者の育成や支援に冷たい岸本区政

アフターコロナ、DX、人手不足、事業継承など新たな時代へ対応した産業政策が求められているにもかかわらず、その内容はゼロに等しい状態です。むしろ実績ある区内事業者やNPOなどが区の事業に参加したり、公共事業に参入するハードルを上げる事例さえ生まれてきています。

⑤スピード感に欠ける子育て・少子化対策

出産から保育・学童・教育の切れ目のない子育てプランがないままにやがて3年。少子化対策は、喫緊の課題ですが、自ら喧伝した児童館廃止反対キャンペーンに終始し、何ら新しい政策は打ち出されていません。

■学童クラブ待機児童解消は令和9年を目途にスピード感にける岸本区政

保育園待機児問題の後には、学童クラブと考えその解消に向けて取り組もうとしていた前区政に比べスピード感のない岸本区政。区議会の答弁では「令和9年度を目途に」とのこと。このスピード感のなさに呆れます。

■新たな児童館7館を整備、「中・高生機能優先館」を7館も

本来ある児童館の機能をいかにうまく活用して地域の子育てのサポートをしていくのかというトータルな視点がなく、新たに7つの児童館(中・高生優先館)の整備を打ち出した岸本区政、区の財政運営の将来が危ぶまれます。また小学生低学年の学童クラブ待機児解消より、最も需要が少ない中・高生優先館を整備するというトンチンカンな計画です。



⑥危惧される介護福祉・医療

■深刻な介護人材の不足

介護人材不足が深刻です。前区政で特養1,000床増設したにもかかわらず、人材不足で運営に支障が出ています。また介護保険の認定通知の遅延(法令では原則30日以内、実態は38日前後)も解消されていません。



■危惧される医療の後退

コロナ後、医療機関の経営状態は厳しさを増しています。現在社会問題化しそうなのが医療機関の建て替えです。前区政の下で計画化され進んできた阿佐谷北東部の地区整備で河北総合病院はこの6月に新しくなります。資材高騰の中で見事にその工事をやり遂げた数少ない成功事例だと思います。人口60万近い杉並区の医療基盤をどのようにするのは区政にとっても大きな課題ですが、岸本区政ではそうした問題意識すらありません。



⑦後退する杉並の教育

■相次ぐ教育現場の事故

この数年間教育現場では憂慮すべき事故が相次いでいます。

- 令和5年5月 荻窪小校庭のラインマーカーの釘による児童の事故
- 令和5年11月 学校給食で提供した食材からカビ毒が検出され自主回収
- 令和6年2月・3月、4月 第九小、桃井第四小、宮前中で児童・生徒の水筒に異物混入事

■区民の知らない間に移動教室は民間任せに、富士学園、弓ヶ浜学園を売却に!

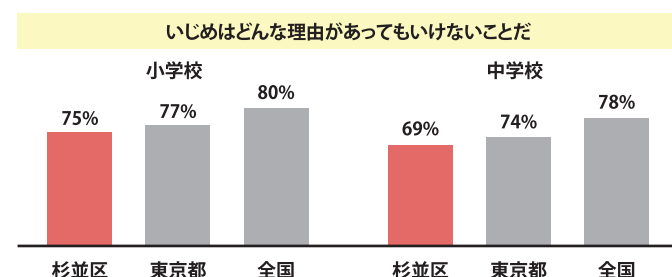
移動教室目的で作った弓ヶ浜学園、富士学園を「民営化宿泊施設の在り方」の検討というカモフラージュで行い、それぞれ閉鎖し、移動教室はいつの間にか民間任せに。そして売却に。これが「区民との対話」の行政の実態!



弓ヶ浜学園

■杉並区の小・中学生の公共心が低下

LGBTなどの教育を優先する中で、「いじめ」を否定する児童・生徒の割合は全国、東京都を下回る(令和6年全国学力状況調査)



⑧行政の場にイデオロギーを持ち込み私物化 — 区政運営

公約を撤回しても謝罪より前区政に責任転嫁、「中立・公平」な行政の場が区長と支持勢力の政治活動の場になっています。こうした中で管理職を目指す職員が激減、区職員の意欲がそがれてきています。

■原稿棒読み—大事な質問ほど役人任せの答弁

■区HPや文書に区長の公約「さとこビジョンの達成度」、区長との対話集会を「さとことブレスト」と呼称。行政の中立性はどこに行ったのでしょうか。

■区長記者会見に自らの支持勢力のフリーランスや「赤旗」の記者が登場、一般紙の質問は激減。

■グリーンインフラや気候変動、ジェンダーなどの取組みの会議体を次々に設置し、イデオロギー色の強い学者を登用し、私物化。グリーンインフラで区と協定を締結した団体の代表は、「オスプレー基地反対」を掲げて県知事選に出馬した大学教授。

■多発する不祥事 昨年の報道機関への情報提供29件のうち13件は職員の不祥事



中立公正なはずの区役所が区長の公約の達成状況をまとめる

明日の杉並区を築く

時代の変化に対応した明日の杉並を皆さんと共に
力を合わせて築いていきましょう！

防災

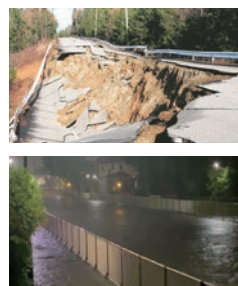
区民の安全・安心の防災対策の推進 — 能登半島地震から学ぶもの

地震対策

- 「災害は必ずやってくる。」— 能登半島地震を教訓に緊急に対応
- ・都市計画道路、狭隘道路の整備、無電柱化の促進
 - ・耐震不燃化の促進、感震ブレーカーの普及
 - ・災害時避難所整備・安心の避難備品のパッケージ化
 - ・防災復旧プラン（電気・ガス・水道）の見える化、電源と水（病院等で地下水）の確保

水害対策

- ・善福寺川上流域の治水対策の推進
- ・環七地下調整池の排水機能の強化



福祉

切れ目のない少子化対策で子育て先進自治体を築く

保育園

- ・保育事業者への支援を強化して保育内容を充実



子育て・少子化対策

- ・就学前からの切れ目のない子育て環境を整備
- ・学童保育待機児童の解消（1～3年生の低学年の待機児解消は最優先課題）
※「児童館再編」は子育てプラザ、学童保育の定員増、放課後の子どもの居場所とセットの施策—「児童館をつぶして子供の居場所を奪う」は真ッ赤なウソ！
- ・小児医療の充実
- ・出産一時金の大幅増額
- ・晩婚、晩産化対策
少子化の最大の原因は女性の晩婚・晩産化（初婚平均年齢 30 歳超、第 1 子出産平均 31 歳超）に歯止めをかけ、20 歳代での出産人口を増やすために、社会全体で女性の採用年齢の引き上げや 20 歳代で出産・子育て中の社員を雇用する企業を支援するなどの取組みを考える必要がある。
- ・ヤングケアラーを支える仕組みの充実、
- ・子どもの貧困対策を推進

障がい者

- ・「親亡き後」の障がい者の生活支援
- ・障がい者の就労支援

介護福祉

- ・福祉人材を確保し、安心の福祉を
- ・福祉人材の育成・確保で特養ホーム待機者ゼロの継続を！
田中区政は、10 年で特養 1000 床増設し、待機者は大幅減少したものの、人材不足で稼働率が低下、杉並区で働く福祉人材の育成は重要課題です。区独自の福祉人材確保対策—「（仮称）杉並介護福祉専門学校」の設立や交流自治体との連携による人材確保などを検討
- ・育成から就職、住居手当等のバックアップ



田中区政で整備した特養ホーム「フェニックス杉並」

まちづくり

まちづくりを推進し、快適で利便性に富んだ杉並区を

幹線道路の整備は百年の計

- ・駅前整備—駅前が街の顔。これからの都市は、駅前で差がつく。災害時の道路の大切さは、能登半島地震の教訓です。
※「何十年前の計画に縛られることはない」は暴論
—中杉通りの整備は何十年もかかってまだその途上ですが、この通りがなくてよいのでしょうか。都市の利益や利便性には分かち合いの精神が必要です。将来世代のために現在の世代が負うべき責任は何か。それを考えない議論は単なる住民エゴです。災害に強く、安全・安心して暮らせるために道路の整備は不可欠な課題です。
- ・ユニバーサルデザインのまちづくり
高齢者や障がい者が安心して移動できるまちの整備
道路の幅員の確保により車イスが安全に通れる様に歩道の拡大



完成近い河北総合病院



消防車が通れない道路

各地域のまちづくりを推進し、暮らしやすさを向上

各地域のまちづくりを推進し、利便性と安全性の高い地域社会を実現しよう。

高円寺

都市計画道路補助 221 号線の整備



阿佐谷

【北東地区の整備】杉一小の跡地活用は隣接地と一体でのまちづくりを目指すべき。
【中杉通りの延伸】都市計画道路 133 号線、都を全面的にバックアップ。



荻窪

【駅前整備】旧若杉小跡地は当面の暫定活用と道路整備を含めた中長期的視点での取組みで。



西荻

都市計画道路補助 132 号線の整備



井草

西武新宿線の立体化



浜田山

浜田山駅南口の開設

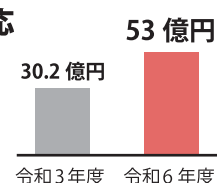


産業・暮らし

都心部に隣接した杉並区の地の利を活かした産業政策にチャレンジ

- ・DX、教育、若い世代のスタートアップ事業の支援
- ・インフレ、人手不足対策で商店街を活性化
- ・区内事業者やNPO等の育成・支援
- ・都市農業振興の促進
- ・第2、第3の農福連携農園で障がい者の就労を支援

- ・ふるさと納税対策で税収減に対応
※なんとふるさと納税の減収は令和3年度 30.2 億円が令和6年度 53 億円に！（現区政は何の手立ても講じていません！）



環境

カタチだけの環境政策でなく、杉並らしい地に着いた環境政策を

本庁舎は自然エネルギーで賄うという内実は、自然エネルギーの電力購入というカタチの見せかけ

杉並ならではの環境政策を推進

- ・高井戸清掃工場の熱エネルギーの活用
- ・遊休区有地を活用した太陽光発電事業
- ・区民参加で脱炭素化まちづくりにチャレンジ

住宅都市に断熱対策は不可欠

- ・住居の断熱対策は、環境、福祉の両面から

前区長時代に取り組み始めたグリーン スローモビリティ



区民の要望は防災・安全と医療福祉

区民意向調査は、毎年杉並区が調査している区民調査です。これによると杉並区民の求めるニーズや行政への評価がわかります。

区民の要望 ベスト5

- ① 防災・減災まちづくり
- ② 犯罪が起こりにくいまちづくり
- ③ 地域の防災対応力の強化
- ④ 高齢者が安心して暮らせる生活と社会参加
- ⑤ 地域医療体制の充実

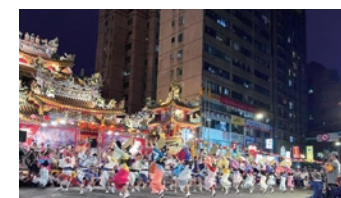
教育・文化・交流

「文化区杉並」にふさわしい教育環境を次世代に！

- ・「良い学校は良いまちをつくる。良いまちは良い学校をつくる」の理念で学校教育を推進
- ・杉並の子どもたちの心のふるさと富士学園の存続を
- ・次世代育成基金で次代の子どもたちに夢を
- ・文化区杉並にふさわしい美術館をつくろう！
- ・学校の体育施設（校庭・体育館、プール）は地域のスポーツ拠点と位置づけて整備
- ・部活を進化させた広域型のスポーツクラブの推進
- ・障がい者のスポーツ環境の向上
- ・Eスポーツを取り入れ、世代間のコミュニケーションを活性化
- ・陽明文庫との連携を強化し、荻外荘を京都に次ぐわが国宮廷文化の発信拠点へ
- ・荻外荘に隣接した資料館は郷土博物館の分館に。荻外荘は法令上は公園だが、内実は文化施設。本来教育委員会が直接で管理運営してもよいくらいの施設。
- ・台湾との交流事業の推進



富士学園での移動教室



東京高円寺阿波おどり台湾公演

行政

国・都・区の連携と公益事業体の協力

- ・区役所の改築—区役所、杉並警察署、杉並郵便局、杉並税務署、都税事務所、年金事務所などが施設更新時期を迎えています。国・都・区の連携で官公庁の集約化を図り、区民の利便性とサービスの向上を！
- ・災害時の電気・ガス・水道の復旧情報を区民と共有できるように電気・ガス・水道事業者等の公益事業体と連携。



区役所

評価が低い教育・障がい児支援

評価が低い 区の施策 ベスト5

- ① 学び続ける力を育む学校教育の推進
- ② 障害児支援の充実と医療的ケア児の支援
- ③ 生涯にわたる学びの支援
- ④ 次世代への歴史・文化の継承
- ⑤ ニーズに応じたきめ細かな教育の推進

（区民意向調査2024より）

今花開く田中前区長の施策

—長期的ビジョンとゆるぎない決意で！—

今もひとつひとつが実現！

行政は長期的視点での取り組みが必要です。

今、田中前区長が取り組んできた施策がひとつひとつ花開いてきています。



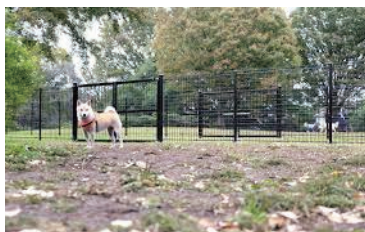
阿佐谷北東地区まちづくりで河北総合病院が改築

コロナ後、武蔵野市などで病院の閉鎖が相次ぐ中で、田中前区長がリーダーシップを発揮して取り組んできた阿佐谷北東部のまちづくりで老朽化した河北総合病院が今年6月に改築工事を完成、その機能を充実させ地域医療基盤が充実し地域医療基盤が向上！



萩外荘が開園

昨年11月、萩窪の萩外荘が開園、毎日多くの人々が見学に訪れています。これは田中前区長のリーダーシップのもと、長年にわたって近衛家との協議、天理教団との施設の移管復元についての協議、そして史跡指定についての国との協議などを行ってきた成果です。



ドッグラン開園

前区長自らの発案と地元都議との連携で東京都に働きかけ、都立和田堀公園内に区立のドッグランを開園。



農福連携農園(すぎのこ農園)

障がい者のいきがい創出や就労支援のために前区長のトップダウンで開園した農福連携農園(すぎのこ農園)は、23区初の取り組みとして内外から注目されています。

質の高い住宅都市へと発展した前区政の12年間

—前区政の実績が今の区民の生活を支えています！—

